

GIS の普及に向けて

土田 雅代 (ESRI ジャパン株式会社)

The Spread of GIS Knowledge

Masayo Tsuchida (Esri Japan Corporation)

1. はじめに

2006年にESRI ジャパンに入社し、教育機関の営業担当として、主に大学機関に ArcGIS の販売やGISが普及されるよう授業でGISの説明や簡単な講習会を行っている。「GIS とは何か?」「GIS が社会でどのように役立っているか」研究と、企業の事例紹介を説明したりしているが、聴講者(学生)に「GIS はすごい」「研究で使えるかも(しれない)」と感じてもらおう工夫をしながら授業を行っている。

2. 活動内容

上記の活動から「GIS をどのように社会に浸透させ、活用させていくか」が私の本セッションでのテーマである。スマートフォンやカーナビが普及し、気軽に地図を見て自分がどこにいるのか、目的地までどのように行くのかと言った用途で利用するデジタルマップは増えてきている。しかし、それが当たり前の行為となっており、GIS を使っているという認知は少ない(意識していない)のではと感じている。

そこで2015年5月よりもっとGISを身近に感じてもらおう、地理分野や工学分野以外にもGISを使うともっと効果的に表現できると言ったメッセージもこめて「教育GIS便り」を月1回配信しはじめた。毎月 ArcGIS Online のアプリケーションの一つであるストーリーマップのテンプレートを利用し、地図を重ね合わせることによって見えてくるものを紹介している。地図と写真を重

ね合わせて表現することにより、何故そこにあるのか?と言った思考力も考慮して作成しており、それをそのまま授業でも紹介できるように工夫を凝らすのが今後の課題である。

また、GIS Day や大学の授業では、「主題図作成」講座を設けており、分野が異なる先生方と協力して作成した「GIS を使った主題図作成講座-地域情報をまとめる・伝える- (2015 古今書院)」を使い、GIS とは何か、何故必要なのか? 主題図を作成する場合はどうしたらよいか?と言ったグループワークショップでGISの普及に努めている。GISを使うにあたって、単純にツールやソフトウェアの使い方だけではなく、〇〇する、〇〇したい場合にはGISを使うともっと効果的に課題が解決できるという気づきにも主題図作成講座は役立ててもらえるかと考えている。

3. 最後に

このように私自身は営業職だが、学校機関を通してGISの社会への普及に努めている。



図-1 作成図例